

カブトガニ、2年ぶり確認

'08/5/31

笠岡市の笠岡湾沖で若い雄のカブトガニが見つかり、市立カブトガニ博物館が引き取った。新たな成体の確認は2年ぶり。捕獲地点は国天然記念物のカブトガニ繁殖地に近く、放流した幼生が成長した可能性が高い。博物館は飼育して人工増殖につなげたい考えだ。

—28日午前10時半ごろ、同市神島の漁業高丸一夫さん(71)の底引き網にかかり、孫の神内小3年智帆ちゃん(8)が29日、博物館に持ち込んだ。小ぶりで全長は雄の平均より約10センチ短い40センチ。重さは700グラム。成体になって1年以内とみられる。

博物館は笠岡湾干拓地造成などで激減したカブトガニを増やそうと1995年から人工飼育した幼生を年間約1000匹ずつ繁殖地に放流している。捕獲された成体は99年ごろ放流した幼生が成長したとみられる。同種の成体の発見は2005年の雌、06年の雌と雄に続き4匹目。

【写真説明】 高丸さん（左）の底引き網にかかったカブトガニ（カブトガニ博物館近くの漁港）

